

# 複合動詞「一疲れる」の前項動詞の特徴について

杉村 泰

## 1. はじめに

日本語の複合動詞(V1+V2)における前項動詞(V1)と後項動詞(V2)の結合可能性については、従来「他動性調和の原則」(影山1993)や「主語一致の原則」(松本1998)が指摘されている。しかし、影山(1993)自身も認めているとおり、「一込む」(押し込む、駆け込む、はまり込む)や「一去る」(葬り去る、走り去る、過ぎ去る)のように「他動性調和の原則」に適合しないものもある。同様に、「主語一致の原則」も「(相場が)持ち直す」や「(日が)照り返す」のように適合しないものもある。

複合動詞のV1とV2の結合を見る場合、実際には多数の動詞の組み合わせを見る必要がある。しかし、従来の研究では研究者の頭に浮かんだ限られた用例をもとに議論が進められることが多かった。これに対し、筆者はインターネットのWWW ページをコーパスとして大量のデータを扱うことにより、実証的にV1とV2の結合規則を導き出す研究を進めている。本稿はその一環として、複合動詞「一疲れる」の前項動詞の特徴について考察したものである。

## 2. 先行研究

影山(1993)は日本語の動詞を他動詞、非能格自動詞、非対格自動詞の3つに分類し、次のように複合動詞のV1とV2の結合には「他動性調和の原則」が働いていると主張している。(例外のあることも認めている。)

- (75) a. 他動詞:(x <y>)
- b. 非能格自動詞:(x < >)
- c. 非対格自動詞: <y>

杉村 泰

V-V 型の複合動詞においては、この項構造が決定的な意義を持っている。(中略)他動詞(75a)と非能格自動詞(75b)の項構造は同じタイプと見なすことができるから、他動詞+他動詞、非能格自動詞+非能格自動詞だけでなく、他動詞と非能格自動詞が混在した複合動詞も可能である。他方、非対格自動詞の項構造(75c)はこれら二者とは形式が異なるから、基本的に非対格自動詞は非対格自動詞としか結合しない。これを他動性調和の原則と呼んでおこう。

(影山1993:117)

影山(1993)は非能格自動詞と非対格自動詞の区分について、「意味的には、ごく大雑把に言うと、意図的に動作を行なう動作主(Agent)を主語に取る自動詞が非能格、意図を持たず受動的に事象に係わる対象(Theme)を主語に取る自動詞が非対格である(p.43)」とした上で、両者の区別が統語構造に反映されることを例を挙げて示し、「非対格性という概念は単に動作主や対象といった意味役割の問題ではなく、統語的な性質を帯びることになる(p.47)」と論じている。

これに対し、松本(1998)は影山(1993)における非能格自動詞と非対格自動詞の認定方法の妥当性に疑問を持ち、再検証した結果、「多くの動詞が非対格性のテストにも、非能格性のテストにも合格する。また、影山が非対格としている「居る」は非能格とする根拠の方が多く、反対に非能格として扱われている「降る」は非対格とする根拠が多いことが分かる(p.41)」と指摘した。その上で、テストの結果ほぼ完全に非能格+非対格、他動詞+非対格と認定できるものとして(1)、(2)の例を挙げ、これを「他動性調和の原則の真の反例と考えられる(p.50)」と述べている。

(1) 非能格自動詞+非対格自動詞

歩き疲れる、遊び疲れる、泳ぎ疲れる、立ち疲れる、座り疲れる、しゃべり疲れる、鳴きくたびれる、走りくたびれる、泣きぬれる、泣き沈む

(2) 他動詞+非対格自動詞

読み疲れる、待ちくたびれる、飲みつぶれる、食いつぶれる、聞きほれる、見ほれる

(松本1998:49の例(15b)、(15c))

これにより、松本(1998)は複合動詞のV1とV2の結合可能性について、「他動性調和の原則」より制約の緩い「主語一致の原則」によって説明できるとした。「主語一致の原則」とは、「二つの動詞の主語として実現する項が同一物を指す、というもので、主語に

なるものであれば外項同士(あるいは内項同士)である必要はない(p.52)」というものである。その上で、松本(1998)は「これに、意味構造に課せられた意味的諸条件が重なって各タイプの複合動詞が制約される(p.52)」と論じている。

次に、本稿で分析の対象とする「一疲れる」に目を向けると、V2の「疲れる」は「意図を持たず受動的に事象に係わる対象(Theme)を主語に取る自動詞」であるため、非対格自動詞であると考えられる。一方、後で示すコーパス調査の結果からも明らかのように、「一疲れる」の V1は基本的に他動詞か非能格自動詞が来る。そして、例(3)、例(4)に示すようにV1とV2は同一の主語を取る。従って、「一疲れる」のV1とV2の結合可能性は、松本(1998)の言うとおり「他動性調和の原則」ではなく「主語一致の原則」によって説明できることが分かる。

- (3) 私は本を読み疲れた。(私は本を読んだ、私は疲れた)
- (4) 私は歩き疲れた。(私は歩いた、私は疲れた)

さて、ここで問題となるのは「一疲れる」の V1が他動詞か非能格自動詞であり、かつV1と V2が同一の主語を取る場合であっても、例(5)、例(6)のように非文となるものもあるということである。このような場合、松本(1998)によると「主語一致の原則」に加え「意味的諸条件」によって制約されることになる。しかし、松本(1998)は個々の複合動詞の意味的諸条件について詳しく論じているわけではない。従って、次の段階として「一疲れる」のV1に課せられる意味的特徴を明らかにすることが必要となる。

- (5) \*私は家を壊し疲れた。(私は家を壊した、私は疲れた)
- (6) \*私は学校に行き疲れた。(私は学校に行った、私は疲れた)

以下、本稿ではインターネットの WWW ページをコーパスとして使用して、実証的に「一疲れる」のV1に由来する動詞の特徴を明らかにする。

### 3. コーパス調査の概要

WWWページをコーパスとして使うことに関しては、不自然な表現が混じる、データの保存性が悪い等の批判もある。しかし、巨大なデータを検索エンジンで手軽に検索できるのは魅力的である。荻野(2007:32)も「WWWをデータベースとして考えると本質的な欠陥があるのだが、検索エンジンの返してくる検索件数を単純に信じるのではなく、

杉村 泰

WWW上の用例を個別に読みながら利用すれば、使い物になる面があるのではなかろうか」と主張しているように、使い方次第でWWWページは有用なコーパスになると考えられる。以下、本稿における検索の概要を記しておく。

コーパス: インターネットの WWW ページ

検索エンジン: goo のフレーズ検索 (<http://www.goo.ne.jp/>)

検索日: 2007年9月5日～2007年9月22日

検索方法: 前項動詞 (V1) は『日本語基本動詞用法辞典』にある852語を含む1,068語を対象とし、これと漢字表記の「一疲れる」、「一疲れた」、「一疲れない」、「一疲れなかった」、「一疲れます」、「一疲れました」、「一疲れません」、「一疲れて」の共起について検索した。表1にはその合計ヒット数を示してある。(連用形の「一疲れ」は名詞の「～疲れ」も多数含まれるため検索対象から外した。)

調査の結果、「一疲れる」の V1には他動詞か非能格自動詞が来やすいことが分かる。このうちヒット数の多いもの60語を表1に示す。(各動詞の左側の数字はヒット数の順位を示す。)

表1 「一疲れる」の V1に来る動詞上位60語 (WWW ページより)

	V1	ヒット数		V1	ヒット数		V1	ヒット数
1	歩く	17,236	21	打つ	273	41	闘う	112
2	遊ぶ	13,859	22	考える	271	42	言う	102
3	泣く	6,637	23	歌う	261	//	迷う	//
4	泳ぐ	4,519	24	攻める	256	44	噛む	87
5	踊る	1,835	25	聞く	234	45	登る	86
6	笑う	1,417	26	並ぶ	227	46	殴る	84
7	待つ <sup>1</sup>	1,085	27	鳴く	225	47	動く	81
8	走る	981	28	萌える	224	48	選ぶ	79
9	飲む	929	29	働く	222	49	食う	77
10	読む	797	30	座る	219	50	叩く	75
11	探す	644	31	怒る	213	51	吠える	72

<sup>1</sup> 「待つ」は「待ち疲れる」より「待ちくたびれる」の形で使われることが多い。「待ちくたびれる」のヒット数は18,420件であった。(2007年9月26日検索)

複合動詞「一疲れる」の前項動詞の特徴について

12	食べる	612	32	叫ぶ	198	52	語る	68
13	悩む	575	33	飛ぶ	185	53	調べる	63
14	戦う	566	34	見る	181	54	吐く	59
15	しゃべる	469	〃	立つ	〃	55	掘る	56
16	話す	439	36	病む	168	56	休む	55
17	書く	394	37	滑る	144	57	投げる	49
18	騒ぐ	364	38	呑む	125	〃	捜す	〃
19	倦む	331	39	乗る	115	59	眠る	47
20	寝る	319	40	逃げる	114	60	描く	45

#### 4. 「一疲れる」の前項動詞の特徴

##### 4.1 基本的な特徴

本稿の調査からも分かるように、「一疲れる」のV1には基本的に他動詞か非能格自動詞が来る。とりわけ上位には「歩く」、「遊ぶ」、「泣く」、「泳ぐ」、「踊る」、「笑う」、「走る」のような非能格自動詞が来るのが分かる。7位の「待つ」は「私は彼の帰りを待つ」のようにヲ格を取るため、他動詞に分類されることもある。しかし、このヲ格は「私は家を壊す」のヲ格のように動作主の直接影響を受ける対象ではないため、典型的な他動詞とは言えない。むしろ、「待つ」は動作主自身の忍耐にかかわる意志的行為なので、非能格自動詞であると考えられる。

また、「一疲れる」のV1には「読む」、「探す」、「飲む」、「食べる」のような動詞も来やすい。これらの動詞は一般に「本を読む」、「家を探す」、「酒を飲む」、「夕飯を食べる」のようにヲ格を取るため、他動詞に分類されるのが普通である。しかし、先ほどの「待つ」と同様、これらの動詞も動作主が対象に何らかの影響を与えることを表すというよりは、「本から知識を得る」、「住む所を見つける」、「酔う」、「腹を満たす」など動作主自身の状態変化を表す表現であると考えられる。その証拠に行為の修正を表す「～し直す」において何が修正されるのかを見ると、V1が「切る」、「貼る」など典型的な他動詞の場合にはヲ格名詞の状態であるのに対し、「読む」などの動詞の場合は動作主の状態であると解釈されやすいという違いがある(例(7)、例(8))。<sup>2</sup> このことから、「読む」などの動詞は典

<sup>2</sup> 後者の場合にも、文脈さえ整えれば「お母さんに食べ方が汚いと叱られたので、今度は夕飯をきれ

杉村 泰

型的な他動詞ではないことが分かる。<sup>3</sup>

- (7) a. 松の枝を切り直す。(修正されるのは松の枝の形)  
b. ポスターを貼り直す。(同、ポスターの位置)
- (8) a. 本を読み直す。(同、動作主の知識)  
b. 家を探し直す。(同、動作主の境遇)  
c. 酒を飲み直す。(同、動作主の酔い加減)  
d. 夕飯を食べ直す。(同、動作主の満腹感)

以上のことから、「一疲れる」の V1には他動詞か非能格自動詞が来やすいこと、他動詞は動作主自身の状態変化を表すものが来やすいことが明らかとなった。

#### 4.2 「一疲れる」と共起しにくい他動詞

次に、同じ他動詞でも「一疲れる」の V1に来にくいものの特徴について考察する。本稿のコーパス調査の結果を見ると、「壊し疲れる」、「燃やし疲れる」、「冷やし疲れる」、「開け疲れる」、「変え疲れる」、「立て疲れる」、「入れ疲れる」、「乗せ疲れる」などは1件も出現しなかった。このことから、動作主が対象に何らかの影響を与えることを表す典型的な他動詞は「一疲れる」の V1に来にくいことが分かる。<sup>4</sup>

もちろん、典型的な他動詞の場合に絶対に「一疲れる」と共起しないわけではなく、「折り疲れる」(1件)や「集め疲れる」(2件)のように少数ながらも実例が出現する。例(9)、例(10)を見ると、必ずしも「一疲れる」の V1に典型的な他動詞が来てはいけないように思われぬ。ただし、日常的にこれらの表現を使うことはあまりないのである。

- (9) 今回はちょっと人が少ないなー、関西コンベンションでみんな折り疲れたのかな？(杉村注:紙折りの話)

(<http://kawacho.seesaa.net/archives/200705-1.html>) 2007/9/7

- (10) GI をメインに YouTube の競馬動画を集めてみました。集め疲れたのでとりあえず、アップ。

(<http://waraiou.seesaa.net/archives/200609-1.html>) 2007/9/5

---

いに食べ直した」のように、ヲ格名詞の状態が修正されると解釈されることもある。

<sup>3</sup> この件については杉村(2006)参照。

<sup>4</sup> 「家一軒を壊すのに疲れた」、「一年分のゴミを燃やすのに疲れた」なら言える。

典型的な他動詞がなぜ「一疲れる」の V1に来にくいのかについては、まだ明確な説明はできない。当面考えられることは、「一疲れる」は主体がどのようにして疲労するのを表す表現であり、V1は V2である「疲れる」の原因を表す動詞でなければならない。その場合、V1は主体自身に心身の疲労という行為の影響を与える。そのため、主体自身に影響を及ぼすことを表す「歩く」や「遊ぶ」のような非能格自動詞や「読む」、「食べる」のような他動詞とは共起しやすく、対象に影響を及ぼすことを表す「壊す」、「燃やす」のような他動詞とは共起しにくいのではないかと考えられる。

#### 4.3 「一疲れる」と共起しにくい非能格自動詞

次に、同じ非能格自動詞でも「一疲れる」の V1に来にくいものの特徴について考察する。本稿のコーパス調査の結果を見ると、「行き疲れる」(3件)、「来疲れる」(0件)、「帰り疲れる」(0件)、「進み疲れる」(0件)、「泊まり疲れる」(1件)、「居疲れる」(1件)、「暮らし疲れる」(1件)、「住み疲れる」(5件)などは出現数が極めて少ない表現であることが分かる。

このうち「行き疲れる」は、3件のうち2件が例(11)のような文語での用例であった。この場合、現代語では「歩き疲れて」と言うのが普通であると思われる。もう一つ、例(12)の「行き疲れる」は「行き飽きた」の意味で使われているものである。本稿ではこれ以上深入りしないが、例(12)は「一飽きる」との類義性を分析するための興味深い用例である。

- (11) 寒き日など行き疲れて急に脳貧血を起こすので、精神呆然として足進まず、一度は仰向けに倒れたが、幸いにも背に負うた大きな植物採集胴乱が枕となったので、岩で頭を砕く難を免れた。

(<http://kiharazourin.co.jp/kumano1.html>) 2007/9/7

- (12) その手の店は行き疲れたという彼女の意見を汲み取り、うまいものが食べれるイタリア料理店として定評がある、「フレーゴリ」へ。

(<http://fujifuji.exblog.jp/m2004-05-01/>) 2007/9/7

「行く」、「来る」、「帰る」、「進む」などが「一疲れる」の V1に来にくい理由は、同じ移動にかかわる非能格自動詞でも「歩く」や「泳ぐ」が移動の手段を表すのに対し、「行く」、「来る」、「帰る」、「進む」は移動行為そのものを表す点にあると考えられる。すなわち、「歩く」や「泳ぐ」は一見移動行為を表しているように思われるが、例(13)に示すように後ろに移動行為を表す動詞をつけて考えると、「バスで」と同様に移動の手段を表していることが分かる。

杉村 泰

- (13) a. 歩いて{行く/来る/帰る/進む}。  
b. 泳いで{行く/来る/帰る/進む}。  
c. バスで{行く/来る/帰る/進む}。

先にも論じたように、「一疲れる」のV1には疲労の原因(一種の手段)を表す動詞が来る。そのため、移動の手段を表す「歩く」や「泳ぐ」は「一疲れる」のV1に来るが、移動行為そのものを表す「行く」、「来る」、「帰る」、「進む」は「一疲れる」のV1に来ることができないのではないかと考えられる。

一方、「泊まる」、「居る」、「暮らす」、「住む」は、主体がある場所に定着して存在することを表す。これらの動詞も行為の手段ではなく結果に焦点のある動詞であるため、「一疲れる」のV1に来にくいのではないかと考えられる。ただし、例(14)～例(17)に示すように少数ながら実例も存在する。この場合、V1には主体の能動性が強く感じられる。

- (14) 懇親会のビンゴ・ゲームに子どもたち同様に盛り上がり、その後の同人誌交流会にも参加して、夜10時前に帰路に着いた。泊まったとも言われたが、アジア児童文学大会で充分泊まり疲れているので、遠慮した。やはり自宅でないといつくり眠れないのだ。

(<http://www.h3.dion.ne.jp/~meijin/page064.html>) 2007/9/11

- (15) 僕が最初の個展『NATURAL』を開催していた時毎日毎日カフェに足を運び、朝から晩まで来る人の反応が見たくてずっと入り浸っていた時、カフェに居疲れた夜、息抜きに行った井の頭公園に居たのが暮部君。

(<http://crystal-style.com/cat3/>) 2007/9/7

- (16) 確かに東京人が田舎に来たら大変だが、地の人間にはその地の人間関係の煩わしさは一切ない。つまり、東京で暮らし疲れた東京人は、日本に住みやすい所はないってこった。

(<http://life8.2ch.net/test/read.cgi/countrylife/1151978912/150>) 2007/9/8

- (17) 僕は「遊び」が大好きだから、六本木や恵比寿、新宿にも足を運ぶけど、例えば六本木ヒルズ、高い金出して住んでも、住み疲れてしまう気がしない？

([http://www.otaku-town.com/special/16/01\\_1](http://www.otaku-town.com/special/16/01_1)) 2007/9/10



#### 4.4 「一疲れる」と共起する非対格自動詞

本稿の調査からも明らかなように、一般に「一疲れる」の V1 に非対格自動詞が来ることはあまりない。しかし、非対格自動詞であっても「一疲れる」の V1 に来ることもある。<sup>5</sup> 次にこのような表現の特徴について見ていく。

まず、例(18)の「咲き疲れる」(ヒット数28件)、例(19)の「輝き疲れる」(3件)、例(20)の「光り疲れる」(1件)について見る。一般に「咲く」、「輝く」、「光る」は非対格自動詞であるとされている。しかし、「咲く」の主語である花は、「受動的に事象に係わる対象(Theme)」(影山1993:43)ではなく、花自体の生命力によって能動的に花を咲かせるものである。また、普通花のような植物は無情物とされるが、生命体であるため擬人的に有情物と捉えられやすい。そのため、花にも疲労を感じ取り「咲き疲れる」と言うのである。同様に「輝く」や「光る」は通常無意志の事象を表すが、例(19)や例(20)の場合には、主語である星々やウミホタルが能動的に光を発する。そのため、星々やウミホタルにも疲労を感じ取り「輝き疲れる」、「光り疲れる」と言うのである。これらの「咲く」、「輝く」、「光る」は主語に能動性があるため、典型的な非対格自動詞ではなく非能格自動詞の性質を持つ。このような場合には、いわゆる非対格自動詞であっても「一疲れる」の V1 に来ることができる。

- (18) ちょっとピークを過ぎていたようで、どの花もなんとなく咲き疲れているように見えた。咲いたばかりはピンとして気品があるのだけれど。

(<http://myktik.exblog.jp/m2007-06-01/>)2007/9/9

- (19) 輝き疲れた星々が、その最後の煌きを黒いキャンバスへと刻み込み、そして消えてゆく。

(<http://news4vip2ch.blog103.fc2.com/blog-entry-84.html>)2007/9/7

- (20) びっくりさせてスマンと思いつつ「いじってみるとまた光るよ!」との助言にすなおにしたがってコリコリ。光り疲れたのか、だんだん反応が弱く…(杉村注:ウミホタルの話)

(<http://www.kanshin.jp/mushishi/?mode=diary&id=33025&date=2007-05>)2007/9/22

次に、例(21)の「痛み疲れる」(15件)と例(22)の「溺れ疲れる」(6件)について見る。「痛む」や「溺れる」は無意志の受動的な事象を表す非対格自動詞であるため、普通「一疲れる」の V1 には使いにくい。しかし、実例では少数ながらも使われることがある。この場合、V1 と V2 の主語は一致し、V1 は主語の精神的・肉体的経験(刺激)を表す動詞で

<sup>5</sup> この場合にも「主語一致の原則」が機能している点が注目される。

杉村 泰

あるという特徴が見られる。

- (21) ところが一向に改善しない痛み。治るどころか右手はついに痺れだし、寝る時もどんな体勢をとっても痛く、痛み疲れてやっと寝る、また痛みで起きてしまう、そんな毎日となる。

(<http://ayaya.picot.ne.jp/inhospital/hernia2.html>) 2007/9/7

- (22) ループルを出るとチュイルリー公園を強く美しい夕日が黄金色に照らしていた。名画の海で溺れ疲れた頭と目を洗い流してくれるかのようだ。

(<http://sea.ap.teacup.com/applet/ishiyama/msgcate9/archive>) 2007/9/7

次に、例(23)の「悩み疲れる」(575件)、例(24)の「倦み疲れる」(331件)、例(25)の「萌え疲れる」(224件)、例(26)の「迷い疲れる」(102件)について見る。これらの V1は人間の心理活動を表す「心理動詞」である。この場合も、V1と V2の主語は一致し、V1は主語の精神的経験(刺激)を表すという特徴を持つ。しかし、上の「痛み疲れる」や「溺れ疲れる」とは違い、実例も多く自然に使われる表現である。一方、同じ心理動詞でも「気付き疲れる」、「惚れ疲れる」、「疑い疲れる」、「好み疲れる」、「嫌い疲れる」は1件も出現しなかった。両者の違いは「悩む」、「倦む」、「萌える」、「迷う」が時間的に幅を持った心理状態を表すのに対し、「気付く」、「惚れる」、「疑う」は瞬間的な心理変化、「好む」、「嫌う」は主体の心理的属性を表す点にあると考えられる。「一疲れる」は「食べ疲れる」や「歩き疲れる」のようにある行為が継続して生じた結果、それが原因で主体に疲労が蓄積されることを表す。従って、「一疲れる」の V1には時間的に幅を持った動詞が使われやすいのである。

- (23) 不器用な人間なんで、生活と音楽、2つ同時にやって行ける余裕ないしなあ～。  
悩み疲れたし、耐え疲れた。安定した生活ってのも、味わってみたい。

(<http://d.hatena.ne.jp/shige0514/20070514>) 2007/9/10

- (24) 都会生活に倦み疲れた身にとって、遠く離れた故郷は懐かしい存在であり、心の拠り所でもあります。

(<http://ns.city.hachinohe.aomori.jp/syokai/taishi/comment.html>) 2007/9/7

- (25) なんだよ、なんだよ、NHK！これは一体どうゆうことなんだよ！！こお～んな、萌え萌えエロドラマをプライムタイムに放送していいのかよっ！今日は、ぐうの音も出ない程、一時間、萌えっぱなしだったよ！はあああああ、萌え疲れた。

(<http://star.ap.teacup.com/doramamoe/13.html>) 2007/9/22

- (26) 金額もピンきりで、あまりにも沢山あり過ぎて、迷い疲れてしまった頃、「一人

#### 複合動詞「一疲れる」の前項動詞の特徴について

の寒い夜にこのワインで温まってね！」というPOPが目に入った。

(<http://sakura.canvas.ne.jp/spr/aquaring/nocturne/diary05.html>) 2007/9/22

もちろん、例(27)の「驚き疲れる」(35件)や例(28)の「びっくりし疲れる」(1件)のように、瞬間動詞が「一疲れる」のV1に来ることもある。しかし、その場合にはその動作(感情)が繰り返し生じたという場面が必要である。その動作(感情)の繰り返しによって主体が疲労したことを表すのがこの「一疲れる」である。

- (27) 生活を共にして、彼の生き方、生活習慣がことごとく違うのに驚き疲れたが、そのとき自分が日本人であることを痛感した。私の生活習慣、常識は外国生活が長くフランスの影響をいくらか受けたとしても、日本人のそれであって、彼とはかけ離れていた。

(<http://www.yoonnet.com/algeria/16.html>) 2007/9/7

- (28) いきなりオープニングでびっくりした。ダンスすごい。そして本編が始まると、更にびっくりした。(中略)後半いきなりらっきーちゃんねるになってびっくりした。ラジオでずっと聞いていただけに。そしてエンディングでびっくりした。びっくりし疲れた。

(<http://www.geocities.jp/rhymeslice/>) 2007/9/22

最後に、例(29)の「濡れ疲れる」(2件)と例(30)の「成り疲れる」(5件)について見る。「濡れる」や「成る」は無意志の受動的事象を表す非対格自動詞であるため、通常「一疲れる」のV1には使いにくい。しかし、敢えて「濡れ疲れる」、「成り疲れる」のように言うと、「濡れた(成った)状態が続いたため疲れる」という疲労の原因をV1の結果状態に求める表現となる。このような表現は一般的な用法ではないが、「一疲れる」のV1に来る動詞の周辺的なものとして注目される。

- (29) 増し土(赤玉大)の後、雨の庭へ出した、新芽が奇麗だ。雨で倒れているシランを切り、濡れ疲れた黄バラ3本は花を始末した。

(<http://www7a.biglobe.ne.jp/~lovesan/newpage59.html>) 2007/9/11

- (30) 夏の終わり、となりで成り疲れたトウガラシがアブラムシにやられて葉を縮ませているのに、「オイニハカンケイナカ」とばかりにツルンツルンしてるの。

(<http://makkyu103.air-nifty.com/ol/cat2076011/index.html>) 2007/9/11

以上のことから、「一疲れる」のV1に来る非対格自動詞は、V2の主語と一致し、主語に事象成立の能動性があるもの或いは主語の精神的・肉体的経験(刺激)を表すものであることが明らかとなった。

#### 4.5 「主語一致の原則」から外れる例

これまでに見た「一疲れる」はいずれも V1と V2の間に「主語一致の原則」が働いているものであった。しかし、中には「相場(円、株)が売り疲れる」(人が円や株を売る、相場が疲れる)のように「主語一致の原則」から外れるものもある。次にこのような表現の特徴について見ていく。

まず、例(31)の「売り疲れる」は「彼女が売り、彼女が疲れる」となるため「主語一致の原則」に適合する。同様に例(32)でも「皆が売り、皆が疲れる」となるため「主語一致の原則」に適合する。これに対し、例(33)では「ユーロを」ではなく「ユーロが」となっており、表面上「人がユーロを売り、ユーロ(相場)が疲れる」となるため「主語一致の原則」から外れる。例(33)の「売り疲れる」は、例(32)の「売り疲れる」からの派生として考えられる。すなわち、市場の投資家たちが売買に疲労すれば市場全体も疲労する、そこから「相場(円、株)が売り疲れる」という表現が成立したと考えられる。この場合、「相場(円、株)が売られ疲れる」と言えば「主語一致の原則」に従うが、それよりも V1に能動的な動詞が来ることの方が優先されている。

- (31) 店のはす向かいの行列に並んで、「老祥記」の作りたて豚まんじゅうを食べる。  
列を制御するおばさんが無愛想なので、彼女が売り疲れるほどひょうばんなの  
だなどかなり期待は高まったが、並ぶほどの価値はなかった。  
(<http://www.orcaland.gr.jp/~morris/nikki/0701dry.htm>) 2007/9/7
- (32) 株なんて皆が売り疲れたところを買い、買われ過ぎたところで売ればいだけ  
の話なのにこれってすごく怖いし難しいんですよ。
- (33) 特にユーロポンドは「何じゃこりゃー」的にユーロが売られており、対ドルでユー  
ロが売り疲れたところで、ポンドドルが暴落から急反転して暴騰、すっかり元の  
水準を回復しています。  
(<http://fortuneblog.livedoor.biz/archives/2005-05.html>) 2007/9/7

ところで、例(31)と例(32)の「売り疲れる」が「うりつかれる」と読まれるのに対し、例(33)の「売り疲れる」は「うりつかれる」と読まれるという違いがある。松本(1998)は「着膨(きぶく)れる」や「食い倒(くだお)れる」を例に挙げ、連濁が起こる場合は直接動詞の複合によって生じたのではなく、「着膨(きぶく)れ」や「食い倒(くだお)れ」のような名詞から派生した可能性のあることを指摘している。もしそうであるならば、「売り疲(うりづか)れる」も名詞の「売り疲(うりづか)れ」から派生したものであると考えられる。しかし、仮

#### 複合動詞「一疲れる」の前項動詞の特徴について

にそうであるとしても名詞の「売り疲れ」はいかにして生じたのかという疑問が残る。とりあえずここでは、例(33)の「売り疲れ」は単に「売る＋疲れる」の複合によってできたものではないことを指摘しておく。

同様に、例(34)と例(35)の「買い疲れる」は「女たちが買い、女たちが疲れる」、「コレクターは買い、コレクターは疲れる」となるため「主語一致の原則」に適合する。一方、例(36)の「買い疲れる」は表面上「人が金を買い、金(相場)が疲れる」となるため「主語一致の原則」から外れる。<sup>6</sup>

- (34) ここでもハロウィン雑貨を買う女たち。買い疲れたので、寒天レストラン「ひまわり亭」で一服することにした。

(<http://manoa.blog14.fc2.com/blog-category-99.html>) 2007/9/7  
(<http://blog.livedoor.jp/aruaru37/archives/2006-06.html>) 2007/9/7

- (35) 実際蓋を開けると、コレクターはマイアミで買い切ったのか、それとも買い疲れたのか、初日の入りは芳しくなかった。

([http://www.dnp.co.jp/artscape/exhibition/focus/0705\\_01.html](http://www.dnp.co.jp/artscape/exhibition/focus/0705_01.html)) 2007/9/7

- (36) 商品先物銘柄が大勢買いのなか、金はいささか買い疲れている感が否めません。

(<http://forestash.blog80.fc2.com/blog-date-200705.html>) 2007/9/7

同様に例(37)の「上げ疲れる」と例(38)の「下げ疲れる」も、表面上「人が相場を上げ下げし、市場が疲れる」となるため「主語一致の原則」から外れる。

- (37) 2007年の年明けからほとんど一直線に上昇してきたNY白金ですが、5月上旬に期近が1300ドル台半ばで頭が重くなり、反落しました。4か月にわたる上昇で上げ疲れているようですが、上昇トレンドは不変とみて良いでしょう。

(<http://www.omnico-platinum.com/>) 2007/9/5

- (38) 東京市場は、そろそろ下げ疲れた!?

(<http://blog.livedoor.jp/bach2042/archives/50952663.html>) 2007/9/9

以上に挙げた「売り疲れる」、「買い疲れる」、「上げ疲れる」、「下げ疲れる」は、いずれも「人々がある行為をした結果、市場に倦怠感が生じる」という意味を表す。これらは

---

<sup>6</sup> この「買い疲れる」も連濁して「かいづかれる」と読まれる。

(i) 買い疲れる (かいづかれる) 上昇相場を期待して買いこんだものの、それほど上昇せず買い気が薄れること。買い過ぎて一服した時も同じ。

(<http://www.neoapex.co.jp/bbs/yougo/main.htm>) 2007/9/7

杉村 泰

「主語一致の原則」よりも「一疲れる」の V1に能動的な動詞が来ることの方が優先されて生じたものであり、経済用語に見られる特殊な用法である。<sup>7</sup>

## 5. まとめ

以上、本稿では複合動詞「一疲れる」の前項動詞の特徴について考察した。要点をまとめると次のようになる。

- ① 「一疲れる」の基本的な特徴
  - ・「一疲れる」は主体がいかにして疲労するのかを表す表現である
  - ・V1はV2である「疲れる」の原因を表す動詞である
  - ・「主語一致の原則」に基づく(経済用語の「売り疲れる」などは例外)
- ② 「一疲れる」と共起しやすい動詞
  - ・「読む」、「食べる」のように主体自身の状態変化を表す非典型的他動詞
  - ・「歩く」、「遊ぶ」のように主体自身に影響を及ぼす非能格自動詞
  - ・非対格自動詞のうち「悩む」、「倦む」のように時間的幅を持った心理動詞(主体自身の感情維持を表す)
- ③ 「一疲れる」と共起しにくい動詞
  - ・ほとんどの非対格自動詞
  - ・「壊す」、「燃やす」のように対象への影響を表す典型的他動詞
  - ・「行く」、「来る」のように移動行為そのものを表す非能格自動詞
  - ・「泊まる」、「暮らす」のように主体がある場所に定着して存在することを表す非能格自動詞
- ④ 非対格自動詞が「一疲れる」のV1に来る場合(実例は必ずしも多くない)
  - ・「咲く」、「輝く」、「光る」などが擬人的に使われ、主語が能動的に事象を成立させることを表す場合(非能格自動詞に近い性質を持つ)
  - ・「痛む」や「溺れる」など主語の精神的・肉体的経験(刺激)を表す場合
  - ・「驚く」、「びっくりする」などの瞬間的感情が繰り返し生じた場合
  - ・「濡れ疲れる」、「成り疲れる」のように疲労の原因をV1の結果状態に求める場合

---

<sup>7</sup> 経済用語には他にも「相場が見直す」、「景気が持ち直す」、「景気が揺り戻す」、「株価が上げ戻す」のように「主語一致の原則」から外れるものがある。杉村(1996、1997)参照。

⑤ 「主語一致の原則」から外れる例

- ・経済用語の「売り疲れる」、「買い疲れる」、「上げ疲れる」、「下げ疲れる」
- ・「人々がある行為をした結果、市場に倦怠感が生じる」という意味を表す
- ・「相場(円、株)が売られ疲れる」と言えば「主語一致の原則」に従うが、それよりもV1に能動的な動詞が来ることの方が優先されている。

以上の結果を見ると、「一疲れる」のV1に来る動詞の特徴として重要なことは、他動詞か非能格自動詞か非対格自動詞かということではなく、V1が主体の能動的行為(感情)を表すものかどうかということにあることが分かる。

### 参考文献

- 荻野綱男(2007) 「コーパスとしての WWW 検索の活用」『月刊言語』第36巻第7号, 大修館書店, pp.26-33
- 影山太郎(1993) 『文法と語形成』ひつじ書房
- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹(1989) 『日本語基本動詞用法辞典』, 大修館書店
- 杉村 泰(2006) 「コーパスを利用した複合動詞「一直す」の意味分析」『言語文化論集』第28巻第1号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, pp.51-66
- (2007) 「コーパスを利用した複合動詞「一戻す」の意味分析」『言語文化論集』第29巻第1号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科, 印刷中
- 松本 曜(1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』第114号, 日本言語学会, pp.37-82

### [付記]

本稿は平成19-21年度科学研究費助成金(基盤研究(C))(課題番号19520451)による研究成果の一部である。

